

「原子力災害からの福島復興の加速に向けて」改訂の進捗

平成28年3月10日(木)

内閣府原子力災害対策本部

原子力被災者生活支援チーム

廃炉・汚染水対策チーム

1. 避難指示の解除と帰還に向けた取組

(1) 田村市：平成26年4月1日 避難指示解除準備区域を解除

- 避難指示解除から約2年が経過し、解除後の転入等も含めて人口の61%、世帯の68%^(注1)の方が居住<20km圏内>（平成27年11月末時点）。
- コミュニティの再生支援等、復興に向けた取組を継続中。

(2) 川内村：平成26年10月1日 避難指示解除準備区域を解除

- 人口の63%、世帯の59%の方^(注1)が帰還<川内村全域>（平成28年1月1日時点）。
- 残された避難指示解除準備区域（旧居住制限区域）においても昨年11月1日から「ふるさとへの帰還に向けた準備のための宿泊（準備宿泊）」^(※)を実施中。復興に向けた取組を加速。

※「準備宿泊」は、避難指示の解除後、ふるさとでの生活を円滑に再開するための準備作業を進めやすくするため、本来、避難指示区域内で禁止されている自宅等での宿泊を特例的に可能にする制度。

(注1) %はそれぞれの時点における市町村の住民基本台帳ベースの人口・世帯に対する割合

(3) 檜葉町：平成27年9月5日 避難指示解除準備区域を解除

- 全住民の方が避難した自治体としては初めての避難指示解除。
- 人口の6%、世帯の10%の方^(注2)が帰還（平成28年2月4日時点）。
- 避難指示解除後も、働く場の確保の支援等、復興に向けた取組を加速。

(注2) %は平成27年9月4日時点における檜葉町の住民基本台帳ベースの人口・世帯に対する割合

(4) 南相馬市・川俣町・葛尾村：ふるさとへの帰還に向けた準備のための宿泊（準備宿泊）を実施

- 南相馬市・川俣町・葛尾村について、昨年8月31日から「ふるさとへの帰還に向けた準備のための宿泊（準備宿泊）」を実施中。解除に向けた環境整備を加速。

(5) 飯舘村・富岡町・浪江町：帰還に向けた環境整備

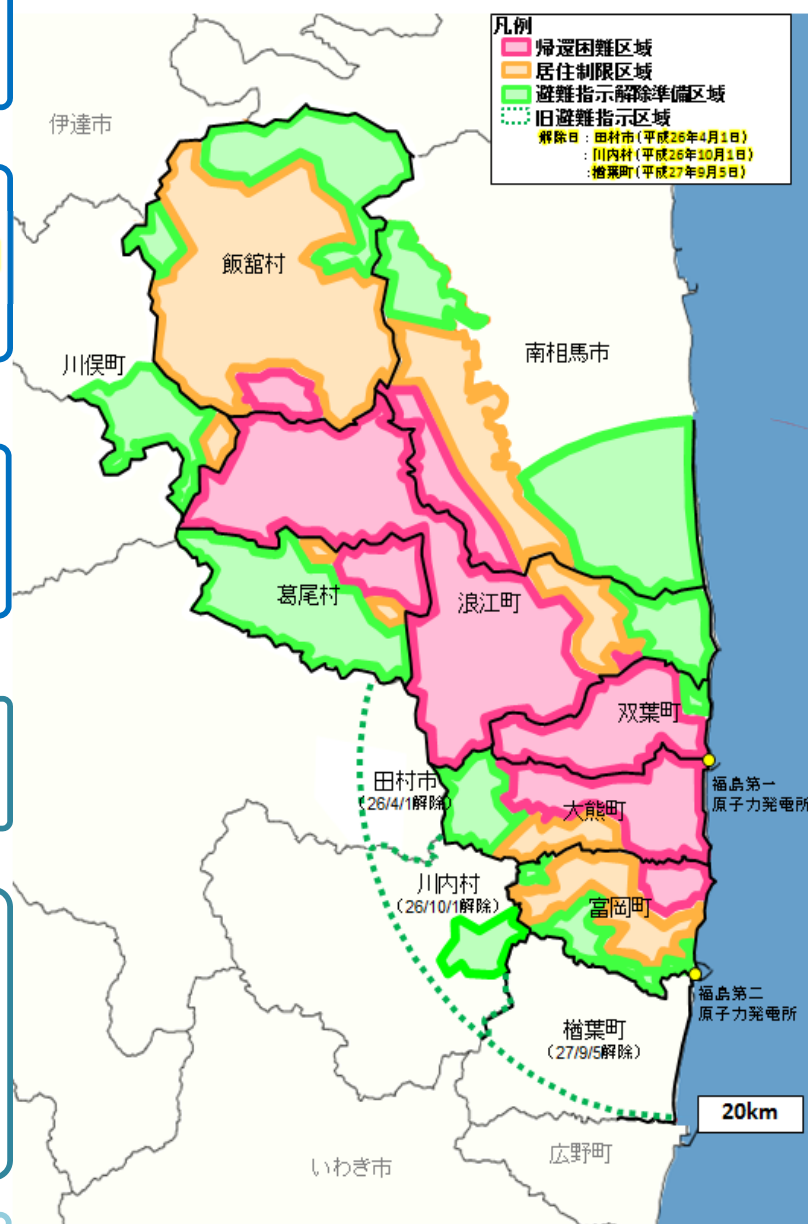
- 飯舘村 春のお彼岸（3月12日～3月27日）の時期に特例宿泊を実施予定。
- 富岡町 春のお彼岸（3月17日～3月23日）、お花見（4月6日～）及びゴールデンウィーク（4月29日～）の時期に初めて特例宿泊を実施予定。
- 浪江町 除染作業やインフラ復旧作業を加速。

※「特例宿泊」は、避難指示解除準備区域及び居住制限区域において、本来認められていない住民の宿泊を、年末年始、お盆等の時期に限り、特例的に認める制度。

(6) 大熊町・双葉町（町の96%が帰還困難区域(人口ベース)）：帰還困難区域の取扱いを検討

- 帰還困難区域の今後の取扱いについては、放射線量の見通し、今後の住民の方々の帰還意向、将来の産業ビジョンや復興の絵姿等を踏まえ、地元とともに検討を深めていく。

避難指示区域の概念図



2. 廃炉・汚染水対策の進捗状況

対策の進捗状況		今後の見通し	
汚染水対策	「近づけない」	<ul style="list-style-type: none"> ○サブドレンの稼働【2015年9月～】 ○陸側遮水壁の凍結方針決定【2016年2月】 	<ul style="list-style-type: none"> ○陸側遮水壁の運用後、建屋への地下水流入量は更に低減する見込み。 ○その他の汚染水発生要因も抑制される見込み。
	「漏らさない」	<ul style="list-style-type: none"> ○海側遮水壁の閉合【2015年10月】 →海水中の放射性物質濃度が低減傾向 (セシウム137：16Bq/L→2.5Bq/L <small>※閉合前5日間の平均値と2016年2月の値の比較(開渠内)</small>) ○溶接型タンクの増設(処理水用タンクの総容量約83万トンのうち約73万トン(約9割)) 【2016年2月時点】 	<ul style="list-style-type: none"> ○汚染水を浄化処理した水を全て溶接型タンクに貯蔵。(ただし、当面の間はフランジ型タンク※を一部、暫定的に継続使用) <p>※タンク周囲への二重の堰(せき)の設置、1日4回の巡視点検等の漏えい対策を実施済み。</p>
	「取り除く」	<ul style="list-style-type: none"> ○海水配管トレンチの汚染水(約1万トン)の除去・充填完了【2015年12月】 	<ul style="list-style-type: none"> ○2016年3月末における敷地境界の追加的な実効線量(評価値)が1mSv/年未満。
廃炉	<ul style="list-style-type: none"> ○1号機建屋カバーの解体【2015年7月～】 ○2号機建屋上部の解体範囲決定【2015年11月】 ○3号機使用済燃料プール内の大型ガレキ撤去完了【2015年11月】 	<ul style="list-style-type: none"> ○燃料取り出しの工程 <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度：3号機において取り出し開始 ・2020年度：1,2号機において取り出し開始 ○デブリ取り出しの工程 <ul style="list-style-type: none"> ・2017年夏頃：号機毎の取り出し方針決定 ・2018年度上半期：初号機の取り出し方法確定 ・2021年内：初号機の取り出し開始 	
労働環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ○一般作業服着用可能エリアの拡大(敷地面積の約9割)【2016年3月】 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型休憩所へのシャワーの新設など、改善を継続。 	
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○広報動画、パンフレットの作成、配布【2016年1月～】 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回福島第一廃炉国際フォーラムの開催【2016年4月】 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○清掃・浄化等による排水路の水質改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○K排水路の港湾内への付け替え完了【2016年3月末目処】 	

【参考】避難指示の解除と帰還に向けた取組①

田村市

平成26年4月1日 避難指示解除準備区域を解除

<復興に向けた取組>

【コミュニティの再生】

平成25年7月に発足した田村市復興応援隊がコミュニティ再生に向けた交流活動等を実施中。



【6次化産品開発・販売】

卵・えごまのスイーツの販売店(都路スイーツゆい)が本年3月24日に開店予定。



川内村

・準備宿泊の期間を平成28年1月31日から避難指示解除(春ごろをめど)までの当分の間、延長。

・準備宿泊の実施状況<避難指示解除準備区域>

-登録人口世帯:2人(1世帯) ※登録人口世帯数は平成28年1月31日時点

-人口世帯数:54人(19世帯) ※人口世帯数は平成27年10月1日時点

<復興に向けた取組>

【介護施設の整備】

「特別養護老人ホームかわうち」が平成27年11月1日に村内に開所。



【買物環境の整備】

新たな商業施設「YO-TASHI」(コンビニ、惣菜店等)が本年3月15日に開店予定。



檜葉町

平成27年9月5日 避難指示解除準備区域を解除

<復興に向けた取組>

医療環境の確保

・本年2月1日、県立診療所(内科、整形外科)が開所。



仮設郵便局の営業再開

・昨年10月13日、町役場駐車場にて郵便局が営業再開。



買物環境の充実

・昨年9月28日、ここなら商店街のブイチェーンネットにおいて、生鮮食品の品揃えが大幅に拡充。



イノベーション・コースト構想

・昨年10月19日、福島第一原発の廃炉を円滑に進めていくための試験設備として、遠隔技術開発センターが開所。本年1月より試験運用を開始。



宿泊施設の整備

・昨年9月19日、レストランを兼ね備えた宿泊施設と露天風呂のある温浴施設がリニューアルオープン。



働く場の確保

・住鉱エナジーマテリアル(株)が工業団地内で本年3月25日に竣工予定。47名の地元出身者を採用。



【参考】避難指示の解除と帰還に向けた取組②

南相馬市

平成27年11月30日から平成28年2月29日まで実施中の準備宿泊について、**平成28年2月29日から避難指示解除まで当面、延長。**

- 準備宿泊の実施状況
- 登録人口世帯：1649人（559世帯）※登録人口世帯数は平成28年3月1日時点
- 人口世帯数：11702人（3673世帯）※人口世帯数は平成27年8月1日時点

<復興に向けた取組>

【医療・保健施設】

平成26年4月より小高病院が再開。



【買物環境の整備】

平成27年9月「東町エンガワ商店」
（お弁当、生活必需品等）が開店。



葛尾村

平成27年11月30日から平成28年2月29日まで実施中の準備宿泊について、**平成28年春の避難指示解除までの間、延長。**

- 準備宿泊の実施状況
- 登録人口世帯：109人（39世帯）※登録人口世帯数は平成28年3月1日時点
- 人口世帯数：1360人（419世帯）※人口世帯数は平成27年8月1日時点

<復興に向けた取組>

【飲料水の安全・安心確保】

井戸掘削等の対策を実施。



【買物環境の整備】

地元商店が葛尾村にて今春再開予定。



※現在は、仮設店舗で営業中

川俣町

平成27年11月30日から平成28年2月29日まで実施中の準備宿泊について、**平成28年2月29日から避難指示解除まで当面、延長。**

- 準備宿泊の実施状況
- 登録人口世帯：93人（36世帯）※登録人口世帯数は平成28年3月1日時点
- 人口世帯数：1193人（555世帯）※人口世帯数は平成27年8月1日時点

<復興に向けた取組>

【飲料水の安全・安心確保】

井戸掘削等の対策を実施。



【防犯対策】

平成27年8月末まで在所が日中の業務を再開。



飯舘村

お彼岸（3月12日～3月27日）に特例宿泊を実施予定。
（飯舘村では平成24年からこれまで、年未年始やお盆の時期を中心に13回実施）

<復興に向けた取組>

【医療施設の整備】

平成28年9月、医療機関「いいたてクリニック」が診療を再開する方針。



【役場の再開】

平成28年7月、村役場が避難先（福島市飯野）から元の役場へ帰還し、業務再開予定。



【参考】避難指示の解除と帰還に向けた取組③

富岡町

富岡町において初めて、下記の日程で特例宿泊を実施予定。

- ・お彼岸（3月17日～3月23日【6泊7日】）
- ・お花見（4月6日～【調整中】）
- ・GW（4月29日～【調整中】）

<復興に向けた取組>

【複合商業施設の整備】
平成28年秋に複合商業施設が開設予定。



(イメージ図)

【町立診療所の整備】
平成28年10月、診療所が町内に開所予定。



(イメージ図)

【イノベーション・コースト構想】
昨年8月、JAEA廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟の富岡町への立地が決定。



(イメージ図)

浪江町

復興まちづくり計画で目標としている平成29年3月の帰還を目指し、除染作業やインフラ復旧作業など復興に向けた取組を加速。

<復興に向けた取組>

【営農再開に向けた取組】
平成27年11月、浪江町産のコメが震災後初めて販売。



【買物環境の整備】

平成28年10月、仮設商業施設を町役場敷地内に開設予定。



※浪江町役場駐車場に開設

大熊町

大川原地区から帰還に向けた環境整備を進める方針であり、除染作業やインフラ復旧作業など復興に向けた取組を加速。

<復興に向けた取組>

【給食センター】

平成27年3月、福島第一の作業員約3千人分の食事を提供する給食センターが稼働。



【大規模太陽光発電施設】

平成27年12月、「大熊町ふるさと再興メガソーラー発電所」において発電開始。



双葉町

中野地区から帰還に向けた環境整備を進める方針であり、除染作業やインフラ復旧作業など復興に向けた取組を加速。

<復興に向けた取組>

【復興まちづくり長期ビジョン(平成27年3月)】



復興産業拠点（中野地区）の整備イメージ

【一時帰宅者用の休憩施設】
平成27年8月、「双葉町ふれあい広場」がオープン。



双葉駅西口（新市街地）の整備イメージ

避難指示解除に向けた主要課題

- 除染
- 上下水道・井戸掘削
- 産業の復旧・復興支援
- リスクコミュニケーション

- 住宅（家屋解体・リフォーム）
- 自立支援（商工業）
- 営農再開
- まちづくり（復興拠点、医療・介護体制、教育、買物環境など）

【参考】第1回 福島第一廃炉・国際フォーラムの全体像

- 事故後5年という節目に、廃炉に関する国内外の叢智を福島に集約・発信すべく、国際イベントを開催。
- 期間は4月10日（日）～11日（月）、場所はいわき市スパリゾートハワイアンズ。（参加規模：約400人）

会議プログラム ～福島に国内外の叢智を結集させる～

■ 初日（廃炉を巡る国内外の実情：4/10（日））

テーマ	プレゼンター
開会挨拶 基調講演	○政府、原賠・廃炉機構 ○OECD/NEA、IAEA
海外での廃炉に関する地域社会とのコミュニケーション経験を共有	○海外の廃炉関係機関、地元関係者等
1F廃炉の現状と将来展望 －地域との関わりを中心に－	○東京電力、地元有識者、国際機関等

廃炉に貢献した作業チームへの感謝状授与

ネットワーキングセッション

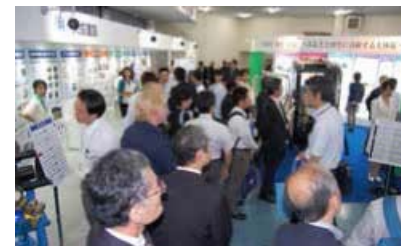
■ 2日目（1F廃炉の課題と今後：4/11（月））

テーマ	プレゼンター
特別講演	○海外の廃炉関係機関等
テクニカルセッション：技術的な課題の克服・解決に向けた専門的な議論	
リスク評価	○分野毎の国内外専門家
デブリ取り出し	
廃棄物対策	

ショーケース ～ビジネスチャンス創出、風評被害払拭～

■ 「廃炉技術展」：4/10（日）～4/11（月）

- 国内外の企業、研究機関など約40団体が、廃炉に関わる研究開発の成果を出展。
- あわせて、福島第一原発に導入されたものと同型、又は、今後導入予定のロボット等を展示・実演。



■ 地元参画による「特別展」：4/10（日）～4/11（月）

- 福島県や地元団体による復興展示等を実施。
- 休憩時間、ネットワーキングセッションにおいて地元産品をケータリング。

